

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	一般社団法人リバーバンク
役職	
氏名	鈴木秀典
着任日	令和5年10月1日

活動月	令和7年9月(着任1年12ヶ月)
主な活動	・鹿児島大学インターン受け入れ ・原研哉氏講演 ・薩摩会議 ・AFAF視察

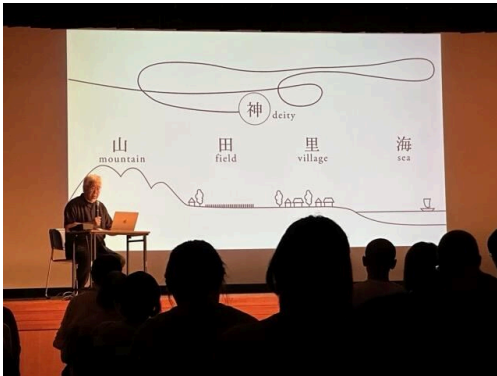
・鹿児島大学インターン受け入れ

官民連携で行う移住定住事業、鹿児島大学の学生を2週間インターンとして受け入れ、南九州市における移住者受け入れ促進のための、シェアハウスやワクワクする賃貸物件について案を考えてもらった。
市内のステークホルダーを回りながら街に対して理解を深めていく様子は、自分の活動の2年間を振り返るような感覚もあり、現時点でまた立ち位置を考えるいいきっかけとなった。最終発表もそれぞれがすてきな案を持って市長へのプレゼンテーションを行ってくれ、とても濃密な2週間となった。



・原研哉氏講演

無印のグラフィックを担当している原研哉氏の講演を聞いた。
高知でローカルをグラフィックの力でブランディングしている梅原真氏との対談もあるとても豪華な会だった。
コンサルに頼むから、全国が同じ都市になっていく。価値の作り方はお金をかけるからできるものでもなく、田舎全体を価値として見出せるほど観察し、それを手を加えずに発信していく。
変にどこかで成功したものを転用するのは、勝ちでも何でもないという言葉はとても強く刺さり、地域おこし協力隊として南九州市で生活をし、日常を見ているからブランドに変えていくという文脈を掘りおこしたいと思った。



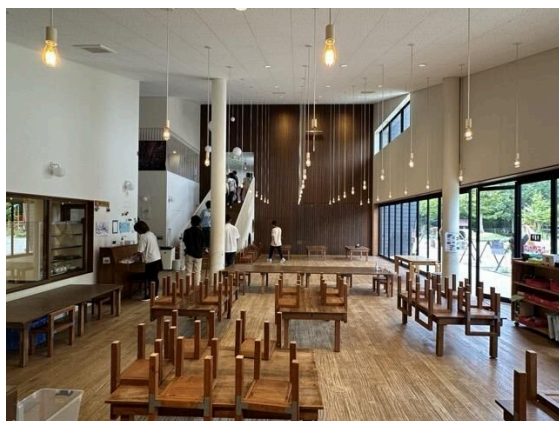
地域おこし協力隊活動報告書

・薩摩会議

昨年から参加している薩摩会議。インプットが多く、とても学びになる3日間を今年も過ごしてきました。150年後の未来に何を残すかという題のもと、人間について、環境について、歴史について、お金について、地域について、AIについて、多角的に今の世界を見つめることで、今後に残していくために自分の活動を考えるいい機会となりました。

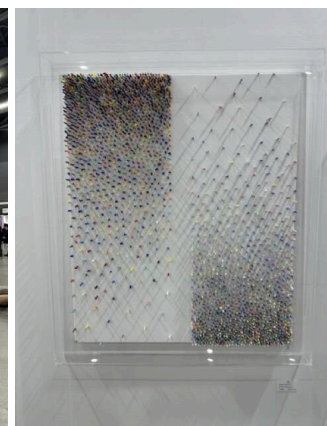


2日目にはフィールドワークがあり、2年連続阿久根へ。食と伝統、子供と未来について考える機会となりました。魚買う量がどんどん減っていく中で、丸干し屋としてどう生き残るか考える下園薩男商店の下園さん、めぐみ保育園では食育、子供の育て方について学び、焼酎に関しても消費量が減る中でどう生き残っていくかという問いをともに考えました。



・AFAFへの参加

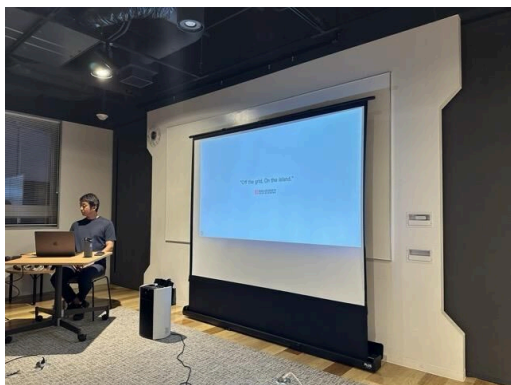
福岡で行われるアートフェア「アートフェアアジア福岡」。アジア規模のアートの祭典を見て、感じてきました。南九州市もブランディングでミナフォト等アート系に力を入れようとしている所なので、これから市がどうブランディングしていくかを考えながら規模の違いはありながらも人をどう呼び込むかを見てきました。



・建築家アテンド

地域おこし協力隊活動報告書

鹿児島を拠点に日本全国の仕事を受ける建築家の講演をきき、翌日に南九州市の現状を視察していただいた。これからの家の形を考えながら、オフグリッドで自邸を設計された氏に、南九州市の空き家活用の現状や、事業に取り組む方々を紹介し、これから一緒にプロジェクトが動かしていけるか意見交換を行なった。



南九州市
Minamikyushu City